

三菱総研DCSが小倉北区に

九州支社の新オフィス開所

地元大学との連携にも力

三菱総合研究所子会社で、システム開発などを手がけるIT企業の三菱総研DCS（東京）は9日、小倉北区の「BIZIA K OKURA（ビジア小倉）」で、九州支社の新オフィス開所式を開いた。支社は4月に同区内の別のビルに開設されており、本格的に事業を始める。

同社は、金融機関向けのシステム開発を中心に、近年は学校のネット出願や人事給与関連サービス、人工知能（AI）を活用して熟練技術を再現する事業などにも力を入れている。

支社はビジア小倉7階に入居し、IT人材の採用や育成、IT企業との協業などにも取り組む。近くにある目黒市場では、再整備に合わせ北九州市立大が新学部を開設する計画があり、地元の教育機関と連携した

取り組みにも力を入れる。

開所式には約60人が出席し、武内和久市長は「デジタル産業の振興などこの地から新しいエネルギー、新しいビジネスが生まれていくことを祈念する」とあいさつ。亀田浩樹社長は「この九州拠点を核に、九州全域ひいては日本全体のIT化や活性化に貢献したい」と語った。（田中良治）



テープカットに臨む亀田浩樹社長（左から2人目）ら関係者

(C) 西日本新聞社 無断転載、複製及び頒布を禁止します。